



BUSINESS REPORT 2012

ビジネスレポート

2011.4.1 > 2012.3.31



About Us

当社グループの概要

私たち「株式会社J-オイルミルズ」は、2004年7月1日、長い歴史を持つホーネンコーポレーション、味の素製油、吉原製油と日本大豆製油を吸収合併し、ひとつの事業会社として新たにスタートいたしました。

これまで経営統合のもとで行ってきた生産・物流・原料調達等の運営効率を一層高めながら、各社が培ってきた営業力・研究開発力・マーケティング力を結集し、お客様へ新しい価値を提案し続けてまいります。

Contents

目次

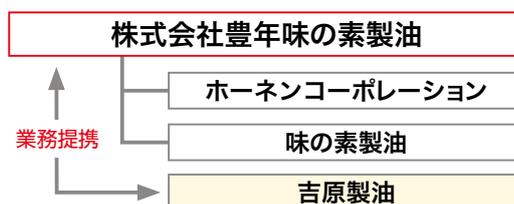
- 1 当社グループの概要
- 3 社長インタビュー
- 5 [特集]
第三期中期経営計画の進捗について
- 6 トピックス
- 9 連結財務諸表
- 10 会社情報 / 株式情報

経営統合・合併への経緯

2002年4月

株式会社豊年味の素製油が発足。

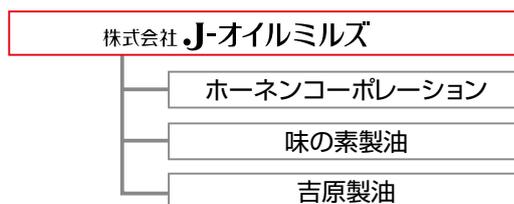
株式会社ホーネンコーポレーションと味の素製油株式会社が経営統合、持株会社「株式会社豊年味の素製油」を発足。



2003年4月

株式会社J-オイルミルズが発足。

吉原製油株式会社が経営統合に参加し、持株会社名を「株式会社J-オイルミルズ」に変更。



2004年7月

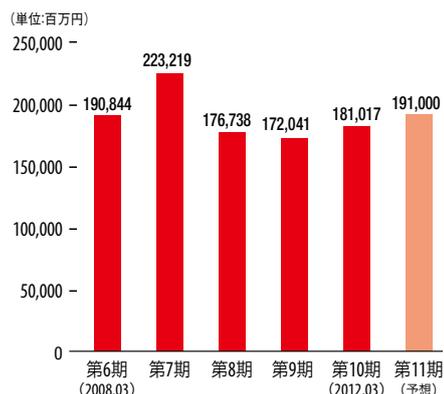
各事業子会社を吸収合併。

「株式会社J-オイルミルズ」として、事業および事業子会社を完全統合。



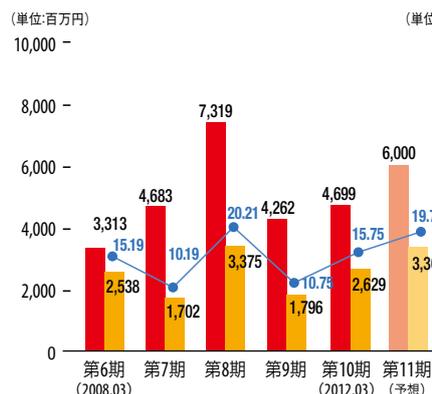
連結財務ハイライト

売上高



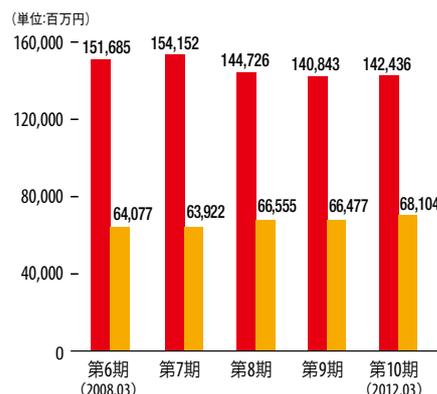
営業利益・当期純利益・1株当たり当期純利益

■ 営業利益 ■ 当期純利益 ● 1株当たり当期純利益



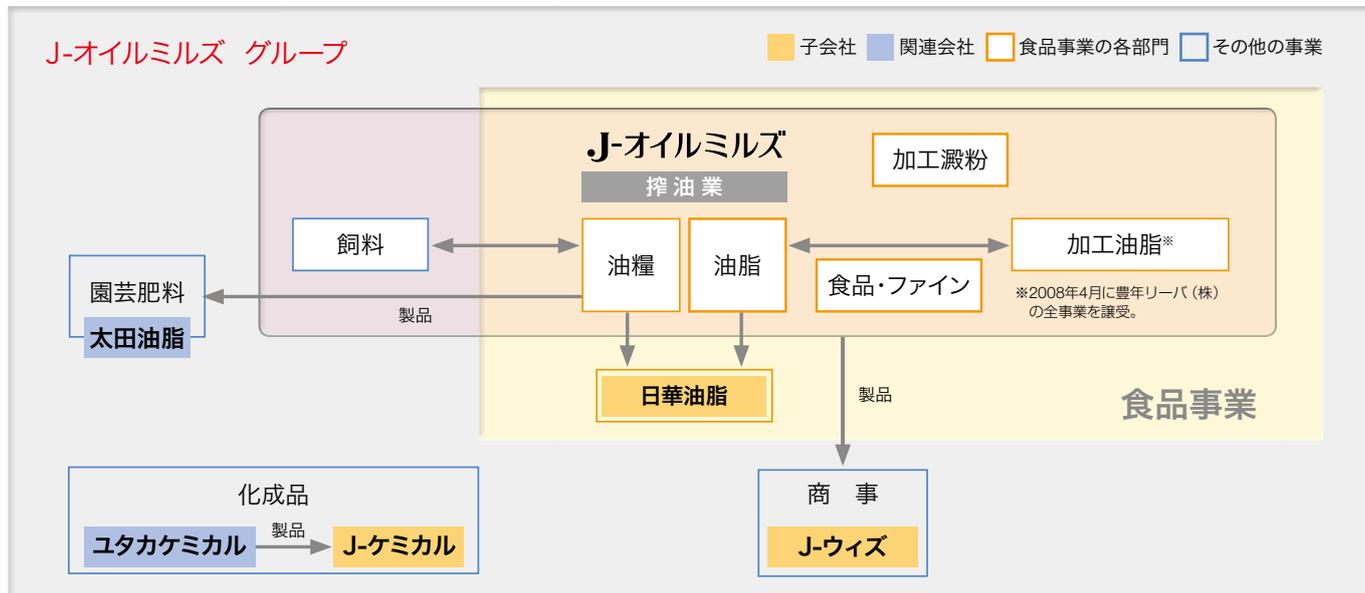
総資産・純資産

■ 総資産 ■ 純資産



当社の事業展開

搾油業を基盤に、油脂・油糧を中心とした食品事業、また、関連する周辺事業をグループ各社とともに展開しています。



事業紹介・商品紹介

● 油脂 (油脂、加工油脂)

ご家庭や中食・外食ユーザー、加工食品メーカーの多様なニーズにお応えする家庭用・業務用の油脂製品や、マーガリンなどの加工油脂製品を提供しています。



● 油糧 (油糧、飼料)

良質なたん白源として、配合飼料や醸造用原料となる脱脂大豆ミールなどを提供しています。



● 化成品

住宅の建築材料や、生活必需品など、身近なところで活躍する合成樹脂接着剤などを提供しています。



● 加工澱粉

ビールやスナック菓子に用いられるコーンスターチや高機能の加工澱粉を提供しています。



● 食品・ファイン

大豆に含まれるイソフラボンやビタミンなどの微量栄養素を利用したサプリメントや、大豆たん白をベースにしたシート状食品などを提供するほか、がん診断薬の開発にも取り組んでいます。



厳しい外部環境のなか、 第三期中期経営計画の成長戦略が着実に進行

粉末油脂事業、海外展開が順調にスタート

Q 2011年度の事業環境についてお聞かせください。

A 採算が悪化する厳しい環境のなか、売上、利益ともに前年度を上回った。

2011年度を振り返りますと、厳しい環境であったことは否めません。当社は基盤事業である食用油の生産に、大豆・菜種を主原料として使用していますが、その価格が高騰し、高値での推移が続きました。食用油の販売価格への転嫁は部分的に成功しましたが、目標としていた額には至りませんでした。また、食用油の併産品であるミール製品を当社が配合飼料向けに販売する価格は逆に低迷する状況が続きました。この結果、事業の採算が悪化しました。

このような状況でも、高付加価値商品の生産、「価値に見合った価格の追求」など、あらゆる自助努力を行い、売上、利益ともに前年度を上回りました。連結売上高は、前年度比5.2%増の1,810億円、営業利益は同10.3%増の47億円、経常利益は同10.5%増の47億円、当期純利益は同46.4%増の26億円となりました。

Q 現在の環境について教えてください。

A 新興国需要を背景とした原料コストの高止まりと、国内経済がデフレ基調から脱却できない状況下でも、「価値に見合った価格」を追求。

● 原料コスト高止まり

主原料である大豆の価格は2012年度に入っても高騰しています。その要因としては、新興国の人口増加や所得拡大などを背景とした穀物需要の増加という根本的な原因があるほか、2012年は天候不順による南米産の不足、最大産地の米国でバイオ燃料のためのトウモロコシへの転作の増加で大豆生産量が減少すると見込まれていること、さらに、投機資金の流入なども背景にあります。一方で、最大消費国である中国の輸入は拡大しています。このように、根底にある新興国需要と天候などの影響による供給不足で、主原料コストが高止まりしています。

● 「価値に見合った価格」の追求

しかし、その一方で、国内の経済はデフレから脱却できない状況が続いています。そのような中でも、「価値に見合った価格」を求めて値上げ努力を重ねており、2011年から2012年にかけて、ようやく価格改定が進み始めたという状況です。2011年4月に、業務

用油1缶(16.5kg)で500円の値上を発表しました。夏までに300円の値上に成功しましたが、7月以降は相場の一時低下などで100円ほど値下がりし、300円の課題が残りました。この300円については2012年の4月から値上を顧客にお願いしており、現段階では概ね受け入れられています。

商品の価値を認めてもらうには、当社自身が、その価値を提供することが必要です。また、それを可能にするためには会社を成長させるためのあらゆる努力が必要です。その指針として、2011年度から第三期中計がスタートし、今2年目を迎えています。

Q 第三期中計は2年目を迎えました。どのような思いで取り組まれていますか。

A 計画の重要性を日々感じるように「座右の計画」として全社員に再認識を促している。

● 「座右の計画」として全社員が共有

この2012年度で2年目を迎えて、これからの取り組みにあたってどのような思いでいるかをお話します。この第三期中計はそれまでと違い、計画立案に携わったメンバーだけでなく全社員が意識を共有できるように「ステークホルダーの幸せを実現する」という明確な理念を打ち出しています。その上で、10年後のあるべき姿を視野に入れて「安定と成



代表取締役社長
榎田 純和

長2020」という基本方針を掲げています。この基本方針にのっとり、成熟市場での戦略、成長市場での戦略を描いています。

しかし、一般的に、2年目になると目的意識が希薄になることがあります。そこで、この中計を日々の仕事の中でも再認識してもらうために、「『座右の銘』があるように、この中計を『座右の計画』にして欲しい」と社員に訴えています。この中計を身近に感じられるように、進捗状況を『中計通信』として四半期に一度社員に配信する取り組みも行っています。

Q 第三期中計の進捗についてお聞かせください。

A 粉末油脂、海外展開など、成長の基盤が整いつつある。

● 順調なスタート

2011年度から3年間の計画として始まった第三期中計は、これまでのところ順調な滑り出しを見せ、着実に進行しています。

第三期中計では、基盤事業である国内向け製油・油脂事業の強化とともに、新たな基軸を求めて、成長のための土台づくりを目指しています。特に、非製油事業の拡大と海外展開を大きな方針としています。具体的には、粉末油脂事業、海外油脂事業、油脂以外の事業（食品・ファイン、化粧品）の3つを育成しており、新たな事業展開である粉末油

脂事業、海外油脂事業の土台が順調に整いつつあります。

● 粉末油脂を新たな柱として育成

粉末油脂の新工場がこの2012年3月に静岡工場内に竣工しました。粉末油脂事業の本格的な開始により、液体油脂、固体油脂を通じて培った当社の技術力を総合的に発揮し、他社との差別化を図ります。また、製油会社としての強みを生かし、原料油脂から粉末形成、包装まで一貫して生産していきます。粉末油脂は、スープや粉末クリーム、冷凍食品などの加工用の原料として幅広く需要があるため、同事業で製造・販売のノウハウを蓄積し、さらには、固体、液体、粉体のシナジーにより、あらゆるニーズに対応した商品の開発をしていきます。将来的には海外展開も視野に入れ、油脂事業の新たな柱に育成していきます。

● 海外展開に着手

海外展開も動き出しました。2011年6月、資本・業務提携をしている不二製油株式会社のタイ現地法人に出資しました。同年7月に稼働開始した同工場の設備を利用して食用油を製造し、東南アジアで事業展開できるよう、その基盤を整備中です。また、2010年に技術供与契約を締結した中国の食品大手企業グループである龍大食品集团有限公司

と、その傘下にある山東龍大植物油有限公司との協力についても、具体的な計画の検討が進んでいます。

中国、東南アジア以外にも、インドや北米などの地域でも事業展開を検討しています。

Q 今後の展望についてお聞かせください。

A 新規事業の割合を高めて、事業の規模と範囲を拡大していく。

● 新規事業の割合を高める

現在の事業構成は基盤事業である国内向けの製油・油脂事業に大きく依存していますが、今後は、その規模を維持しながら、非製油事業や、海外展開などの新しい成長基軸を育成し、事業構成におけるそれらの割合を相対的に高め、事業の規模と範囲の拡大を目指します。

第三期中計で目指している2013年度の営業利益100億円という数値目標や、2020年度を見据えた将来の「安定と成長」の実現、そして、「ステーキホルダーの幸せを実現する」という理念の実現のため、あらゆる努力を重ねてまいります。今後も皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

【特集】 第三期中期経営計画（2011年度～2013年度）の進捗について

外部環境の影響を緩和するための経営体質の構築： 第三期中計を指針として将来の「安定と成長」へ注力

第三期中計で将来の「安定と成長」を目指す

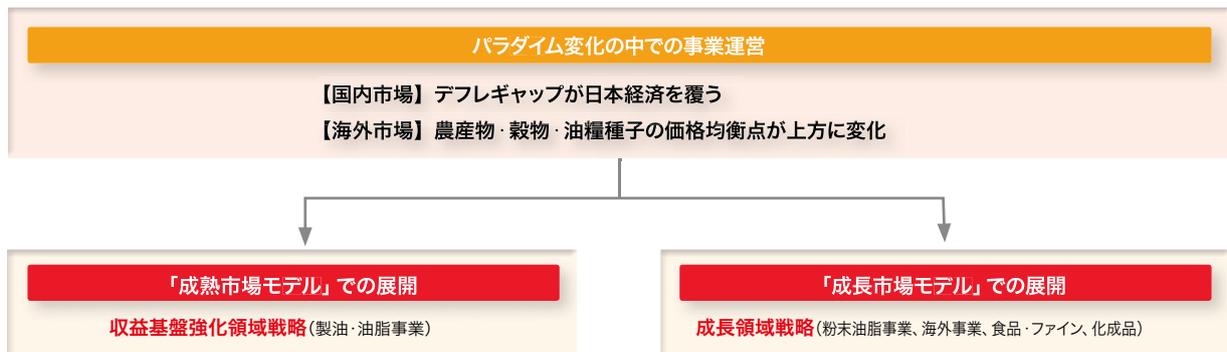
当社が食用油を生産するために用いる大豆・菜種原料や、食用油の併産品であるミールのいずれも、世界的な食料需要や天候などで相場が大きく左右されます。当社は、主原料である大豆を全て輸入に依存しているため、外部環境の影響を受ける要素が強く、一層の自助努力をしていく必要があります。その指針となっているのが、2011年度から

スタートした第三期中計です。この中計は、10年後とそれ以降の将来の「安定と成長」を実現するための方針です。

当社の基盤事業である国内向け製油・油脂事業は成熟市場で展開しているため、新たな事業領域と市場の開拓が必要です。そこで、この第三期中計では、基盤の国内向け製油・油脂事業において、「価値に見合った

製品価格の実現」「コストダウン」「付加価値型商品の開発と導入」により、収益の改善と安定に取り組んでいます。同時に、新たな成長領域を開拓するため、粉末油脂事業、海外油脂事業、油脂以外の事業（食品・ファイン、化成品）にも取り組んでいます。

● 第三期中期経営計画の骨子



新たな成長領域の開拓：粉末油脂事業の本格スタート

新たな成長領域の開拓に向けた戦略のうち、特に、非製油事業の発展と海外展開への双方に大きな役割を果たすことが期待される粉末油脂事業について、将来の発展に向けた基礎固めが進展しています。

2012年3月8日、約6万坪の広大な敷地を持つ静岡工場（静岡市清水区）の構内に新たに粉末油脂専用工場が竣工し、本格的に粉末油脂事業がスタートしました。原料相場の高値での推移、価格競争など、厳しい経営環境のなか、成長へ向けた新たなチャレンジとして位置づけています。

粉末油脂は、コーヒー用の粉末クリーム、製菓・製パン、冷凍食品など、幅広い用途が

ある有望な成長分野です。当社がこれまでに培った技術力を総合的に発揮して、また液体、固体、粉体とバラエティー化することで、他社にはない、新しい価値を訴求していきます。

同工場は、6階建てで、内部には4フロアを突き抜ける高さ約15mに及び最新式の大型スプレードライヤーがあります。同工場は、原料油脂の混合から、乳化、噴霧乾燥、造粒、

包装に至るまで、粉末油脂の製造工程を一貫して担う機能を備えており、年間5千から1万トンの粉末油脂の生産能力を持ちます。

稼働開始から初期の段階では、国内向けの生産を中心とし、その後は、中国、東南アジア、インドなどの海外市場を含めた外販に乗り出し、2020年に約50億円の売上を達成することを目指します。



粉末油脂専用工場外観



最新式の大型スプレードライヤー

[新商品の展開]

基幹事業の収益強化のため、高付加価値製品を投入

当社は、新規の成長領域の開拓に取り組んでいますが、会社が発展するには、新規事業を支える製油・油脂事業が当社の根幹をしっかりと支え続けてこそ実現できるものであると認識しています。そのため、基幹事業である製油・油脂事業の収益強化に向けて、続々と高付加価値商品を投入しています。

家庭用・業務用マーガリン：両市場向けを生産する強みを生かす

家庭用マーガリン「ラーマ バター好きのためのマーガリン」を2011年9月に発売開始しました。独自の「味わいMTE製法」によって、原料にバターを使用しなくてもバターのようなコクと味わいを実現しました。そのため、パンに塗るだけでなく、加熱料理にも使えます。

売れ行きは好調で、当初の販売計画を50%上回る状況で推移しています。マスコミにも多く取り上げられました。バターの値上がりや、節約志向を反映し、マーガリンの需要が高まるなか、同商品は、おいしさにこだわりを持つ消費者の支持を得ています。

業務用マーガリンでは、2011年9月にバター風味とはひと味違い、塩味が強いとチーズのような風味が出て、甘い時には発酵バターのような風味が出るという不思議な風味感が特長の「マイスターフェルメラ」と「マイスターフェルメラシート」、コーヒー風味を付与したシートマーガリン「オーセントシート・カフェ」を発売し、好評を得ています。

当社は、家庭用と業務用の両方のマーガリンを生産する数少ないメーカーのひとつとして、その強みを生かして幅広く需要を取り込んでいきます。



ラーマ バター好きのためのマーガリン(160g)



マイスターフェルメラ(500g)



オーセントシート・カフェ(500gシート)

少人数世帯のニーズを取り込んだ使い切り商品

単身世帯や少人数世帯向けに、従来の400g～1,350gのサイズに加えて、容量を少なくした使い切りサイズの「ちょっとdeちょうどいい!」シリーズを2012年2月に発売開始しました。

「AJINOMOTO さらさらキャノーラ油」「AJINOMOTO さらさらキャノーラ油あっさり炒め1/2」「AJINOMOTO 健康サララ」の3点で、いずれも300gのペットボトルです。70gで販売していた商品ラベルに「ちょっとdeちょうどいい!」マークを追加するなど、店頭での販売方法も工夫し、消費者のあらゆるニーズに対応していきます。



AJINOMOTO
健康サララ
(300g)



AJINOMOTO
さらさらキャノーラ油
(300g)



AJINOMOTO
さらさらキャノーラ油
あっさり炒め1/2
(300g)

Topic 2

〔新商品への表彰〕

減塩とおいしさを両立した 技術力で受賞

2011年3月に発売開始した「ラーマソフト減塩」が2012年2月、日本食糧新聞社主催の「第25回新技術・食品開発賞」を受賞しました。同賞は、市場での新分野の開拓、成長の原動力となる商品に与えられるもので、当社商品を含めて6品が受賞しました。

この商品は、長年の研究により独自に開発した「テイストクリア製法」で従来のソフトタイプマーガリンと比較して塩分を40%カットしながらも、口中での塩分の感覚とおいしさを維持することに成功しました。「塩分過多の日本人の食生活改

善のため、おいしい減塩マーガリンをつくる」という目標のために開発部門と製造部門が協力し、国内の食品業界における新ジャンル・新市場の形成に貢献したことが評価されました。



ラーマソフト減塩
(160g)

機能性と環境性を備えた 容器で受賞

「AJINOMOTOごま油」の340gシリーズの容器が2011年夏に刷新され、2012年3月に日本ガラスびん協会が主催する「ガラスびんアワード2011」において、審査員特別賞の「根本美緒賞」を受賞しました。「ガラスびんアワード」は「優れた機能性や環境性を備えた作品」を評価するもので、同シリーズの容器は、ごま油の香りと味を維持する機能と持ちやすさが備わっていることが評価され、当社初の受賞となりました。



受賞作品と贈呈トロフィー

Topic 3

[物流過程における安全管理]

当社は食品というデリケートな商品を生産していますので、当社工場内の生産工程だけでなく、工場から出荷して、食品メーカーやスーパー、飲食店などに届けるまでの物流過程においても、細心の管理を必要とします。そのため、配送協力会社との安全管理の取り組みの強化を図っています。

その一貫として、物流に関する納品先からのクレームゼロを目標として、配送協力会社とその乗務員を対象にした安全キャンペーン「配送はあとキャンペーン」を毎年春から夏にかけて実施しています。2012年度で4回目を迎えました。具体的には、当社社員が配送協力会社を訪

問して安全への取り組みの協力を依頼するほか、当社各工場の物流受付事務所や積み込み場所、配送協力会社の事務所などに、キャンペーンの旗やポスターを設置し、乗務員への注意喚起を促しています。

また、同キャンペーン以外にも、恒常的な取り組みも進めています。配送協力会社を対象にして当社の工場見学会を実施したり、安全基準を満たしているトラック運送業者の事業所ごとに社団法人全日本トラック協会が発行する安全認証「Gマーク」の取得を当社から各配送協力会社に要請し、安全対策の強化を推進しています。



「配送はあとキャンペーン」ポスター

Topic 4

[循環型社会の構築]

天然資源には限りがあるため、それを有効活用する循環型社会の構築を目指した取り組みが世界中で行われています。当社はすでに食用油の併産品であるミールを利用した商品を販売してきましたが、このたび味の素(株)とともに、資源の有効活用を一層発展させ、循環型社会の構築に貢献する肥料を共同開発しました。

従来から、当社は「菜種ミール」を畜産用の配合飼料原料や肥料として販売しており、味の素(株)もうまみ調味料「味の素」などを製造する過程で発生したでんぷんなどの発酵液からつくる肥料「アミ

ハート」を販売してきました。

「菜種ミール」を粒状に加工した上で「アミハート」を吸着させて、即効性があり、かつ長く栄養を植物に供給する高機能の家庭用の有機肥料「すぐ効く粒状油かす」を共同開発し、グループ会社である太田油脂(株)が生産し、(株)JOYアグリから販売しています。

2012年2月から販売を開始し、現在は農家向けにも販路を広げており、さまざまな植物や農産物の生産にも利用されることで、循環型社会の構築に貢献することが期待できます。



すぐ効く粒状油かす

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)		当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	75,620	73,425	流動負債	56,523	48,586
固定資産	66,815	67,417	固定負債	17,808	25,778
有形固定資産	55,401	56,004	負債合計	74,332	74,365
無形固定資産	524	619	【純資産の部】		
投資その他の資産	10,890	10,792	株主資本	66,085	64,791
資産合計	142,436	140,843	その他の包括利益累計額	2,018	1,685
			純資産合計	68,104	66,477
			負債純資産合計	142,436	140,843

金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位: 百万円)

	当連結会計年度 [自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]	前連結会計年度 [自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]
売上高	181,017	172,041
売上原価	152,447	143,902
売上総利益	28,570	28,138
販売費及び一般管理費	23,870	23,876
営業利益	4,699	4,262
営業外収益	345	420
営業外費用	373	455
経常利益	4,672	4,228
特別利益	98	127
特別損失	469	1,374
税金等調整前当期純利益	4,301	2,980
法人税等合計	1,672	1,184
少数株主損益調整前 当期純利益	2,629	1,796
当期純利益	2,629	1,796

金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	当連結会計年度 [自平成23年4月1日 至平成24年3月31日]	前連結会計年度 [自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,175	4,762
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,807	△ 5,970
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,190	△ 2,046
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 0	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	177	△ 3,254
現金及び現金同等物の期首残高	5,778	9,032
現金及び現金同等物の期末残高	5,955	5,778

金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
平成23年4月1日残高	10,000	31,633	23,368	△ 210	64,791	1,653	54	△ 22	1,685	66,477
当連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,335		△ 1,335					△ 1,335
当期純利益			2,629		2,629					2,629
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
自己株式の処分		△ 0		0	0					0
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の 変動額(純額)						368	△ 12	△ 23	333	333
当連結会計年度中の変動額合計	-	△ 0	1,294	△ 0	1,293	368	△ 12	△ 23	333	1,627
平成24年3月31日残高	10,000	31,633	24,662	△ 210	66,085	2,022	42	△ 45	2,018	68,104

金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Corporate Information

会社情報

会社概要

(2012年7月1日現在)

商号	株式会社J-オイルミルズ J-OIL MILLS, Inc.
本社所在地	〒104-0044 東京都中央区明石町8番1号 聖路加タワー 17F~19F TEL: 03-5148-7100(代表)
創立	2002年4月1日
資本金	100億円
代表者	榎田 純和
事業内容	1. 油脂、油粕の製造、加工、販売 2. 澱粉の製造、加工、販売 3. 各種食品の製造、加工、販売 4. 飼料および肥料の製造、加工、販売 5. 食品製造機器の販売 6. 倉庫業、港湾運送業、一般貨物自動車運送事業 および貨物自動車運送取扱い事業 7. 不動産の賃貸

●本社

東京都中央区

●支社・支店・営業所

東京支社	大阪支社
北海道支店	東北支店
関東支店	名古屋支店
北陸支店	中国支店
四国支店	九州支店
新潟営業所	長野営業所
静岡営業所	

●工場・事業所

千葉工場	横浜工場
静岡工場	浅羽工場
神戸工場	若松工場
坂出事業所	

●研究所

油脂研究所	ファイン研究所
油糧蛋白研究室	スターチ研究所
	生化学研究所

役員

(2012年6月28日現在)

代表取締役社長	榎田純和	執行役員	坂内昭夫	執行役員	塩田勝司
取締役兼専務執行役員	中園直樹	執行役員	山形芳弘	執行役員	高山 明
取締役兼専務執行役員	松居伸一	執行役員	内藤 彰	執行役員	服部 広
取締役兼常務執行役員	吉田 哲	執行役員	立見健一	執行役員	富澤 亮
取締役兼常務執行役員	善當勝夫	執行役員	石橋朋純	常勤監査役	佐伯 賢
常務執行役員	松崎成秀	執行役員	田島郁一	常勤監査役	星野国幸
常務執行役員	谷口克彦	執行役員	平野 弘	監査役	日下宗仁
常務執行役員	後藤康夫	執行役員	内山明浩		

Stock Information

株式情報

株式の状況

(2012年3月31日現在)

発行可能株式総数	540,000,000株
発行済株式総数	167,542,239株
株主数	19,067名

大株主

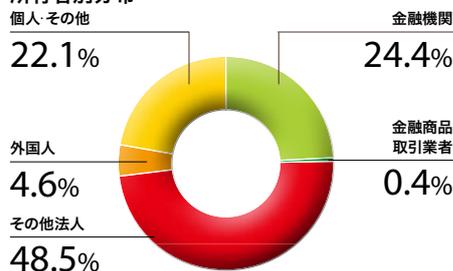
(上位10名)

株主名	持株数(千株)
味の素株式会社	45,269
住友商事株式会社	12,246
三井物産株式会社	10,865
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,032
東京海上日動火災保険株式会社	4,143
J-オイルミルズ取引先持株会	3,383
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,371
株式会社みずほコーポレート銀行	2,713
三井住友海上火災保険株式会社	2,713
農林中央金庫	2,351

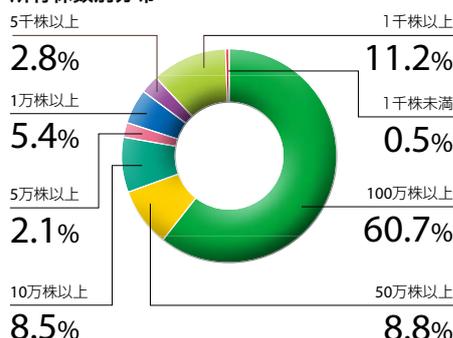
株式の分布状況

(2012年3月31日現在)

所有者別分布



所有株数別分布



おいしい♪は 幸せのエネルギー。



株式会社 **J-オイルミルズ**

〒104-0044 東京都中央区明石町8番1号 聖路加タワー 17F~19F
TEL:03-5148-7100(代表)

<http://www.j-oil.com/>



Seiroka-tower 17-19F, 8-1 Akashi-cho, Chuo-ku, Tokyo, 104-0044 Japan
TEL: +81-3-5148-7100

